

令和 7年度施策方針書

政 策	01 共に支え合い豊かに暮らせるまちづくり
施 策	01 健康で豊かな暮らしの実現
主管課	健康づくり課
関連課	国保年金課、健康づくり課、漁港振興課、スマイルライフ推進課
施策が 目指す姿	市民/心身ともに健康に暮らしている

方針

令和 7年度	・ 健(検)診の受診率向上のため、健(検)診の重要性について、保健委員活動や健康講座等あらゆる事業を通してより一層の周知を行うとともに、受診率の低い40・50歳代を中心に健(検)診を受診しやすい環境を整備する。 ・ 第3期保健事業実施計画（データヘルス計画）に基づき、糖尿病や高血圧予防に重点を置いた訪問指導や健康講座等の保健事業を行うことにより、生活習慣病予防及び重症化予防の推進を図る。 ・ 「スマイルライフ推進センター」の基本計画に基づき、健康づくりと生きがいくりの拠点となるよう、食生活推進協議会等関係団体と連携し、より具体的な運用方針を検討する。
--------	--

指標

成果 指標名①	自分自身が心身ともに健康だと思う割合				単位	%
					達成率区分	増加目標
目標値		令和02年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度
	計画		74.7	74.7	74.7	74.7
	実績	74.6	72	72.5		
達成率			96.39%	97.05%		
成果 指標名②	生活習慣病による死亡者数（75歳未満）（↓）				単位	人
					達成率区分	削減目標
目標値		平成30年	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度
	計画		278	278	278	278
	実績	279	246	256		
達成率			113.01%	108.59%		
成果 指標名③	(追加指標)健診受診者の糖尿病（HbA1c 6.5%以上）の割合（↓）				単位	%
					達成率区分	削減目標
目標値			令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度
	計画				11.4	11.3
	実績			11.5		
達成率						

事業費内訳

(単位：千円)

		令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度	令和 9年度
事業費	計画	0	0	641,609	829,753	779,507	783,280
	実績	0	0	0			
財源内訳	国庫	計画	0	0	5,076	3,396	2,773
	支出金	実績	0	0	0		0
	県	計画	0	0	55,334	56,531	55,264
	支出金	実績	0	0	0		
	地方債	計画	0	0	0	0	0
	実績	0	0	0			
	その他	計画	0	0	111,653	190,892	83,432
	実績	0	0	0			10,864
	一般	計画	0	0	469,546	578,934	638,038
	財源	実績	0	0	0		717,152
人件費	計画	0	0	103,120	78,518	78,518	78,518
	実績	0	0	0			
トータル コスト	計画	0	0	744,729	908,271	858,025	861,798
	実績	0	0	0			

令和 5年度評価兼事中（令和 6年度）評価

施策の 振り返り	・新型コロナウイルス感染症対策については、5月8日に感染症法上は2類から5類となったが、ワクチン接種については、予防接種法上は特例臨時接種として継続されたため、医師会等との連携を図りながら個別接種を中心に実施した。 ・健康づくりの普及啓発については、食生活推進協議会活動では、コロナ禍前の実施状況に戻ったが、保健委員活動は、地区での健康講座については感染状況を見ながら実施した。その他、がん検診、健康相談等はコロナ禍前の受診状況には戻っていない状況である。 ・「健康見える化コーナー」では、歯科保健や貧血等の健康講座、生活習慣病に関するクイズラリー等、年間5回のイベントを実施し、楽しみながら健康について学ぶとともに、自分の健康状態や生活習慣等を振り返る機会となった。令和5年度の利用状況については、新規利用者1,020人、2回目以降の利用者が638人、合計1,658人、機器での計測実施延べ件数は7,121件であった。 ・健康づくり課のアトレ庁舎への移転に伴い、こども家庭センターを設置し、妊娠期から子育て期までの相談体制の充実を図り、必要な支援について迅速な対応が可能となった。 ・令和8年度の本格稼働を目指し、健康づくりと生きがいづくりの拠点となる「スマイルライフ推進センター」の基本計画を策定した。 ・若い世代の健(検)診受診率の向上のため、LOGOフォームによる申し込みや、LINEによる受診勧奨、休日に実施する集団健(検)診の回数を増やすなど健診の体制の充実を図った。特定健診においては、集団健診の受診割合が増加したが、若い世代の受診率向上にはつながらなかった。 - また、自身の健康づくりに関心を持てるよう、健康アプリ等の検討を行った。 ・生活習慣病予防や重症化予防のため、優先度をつけた訪問指導、健康教育等を実施した。訪問指導については対象者の67.6%に実施した。
施策の 課題	・今後起こりうる新興感染症への対応については、県や医師会等と連携して行う必要がある。 ・健康づくりの普及啓発については、事業を実施する中で、健康づくりや疾病予防に対する関心の低い40・50歳代の意識の醸成を図る必要がある。 ・「スマイルライフ推進センター」の基本計画に基づき、健康づくりと生きがいづくりの拠点となるよう、関係各課や機関と連携し、運用方針を検討していく必要がある。 ・健(検)診の受診率が低く推移しているため、再度健(検)診の重要性を周知するとともに受診率の低い40・50歳代が健(検)診を受診しやすい環境の整備を更に図る必要がある。 ・第3期保健事業実施計画（データヘルス計画）を策定する中で、特定健診受診者では、高血圧、高血糖者の割合が高くなっており、糖尿病性腎症が原因となる人工透析新規導入者が減少していない現状となっているため、生活習慣病発症予防と重症化予防対策を継続して実施する必要がある。
市民意見	・健康づくり事業に参加した市民には、ポイント付与などの利点があるとよい。また、特定健診の受診率向上が市にインセンティブがあるということを周知していく必要がある。